

はなの木

飯地小学校だより
令和7年度 第3号

令和7年5月26日

「体力テスト」が教えてくれること

校長 下 畑 茂

◇「飯地の子」は、いつ「いいじっ子」になるのか

通学路の木々の緑が色濃くなり、山が近くに見えるようになりました。若葉の育ちと共に、子ども達も毎朝、元気に登校してきます。学校に着いて玄関で口にする水筒の水が、とても美味しそうです。先日の「ふるさと探訪遠足」で地域を歩いて、高低差がある通学路を、低学年が毎日ランドセルを背負って歩いてくることが、いかに大変であるか私達職員も実感しました。夏も、そして冬の日も。6年間、毎日歩む道程。いいじっ子の逞しさの礎が、育まれていきます。

本校は、年間2回「体力テスト」を行っています。それぞれが自分の得意、弱さを知って、朝活動「運動」の時間に体づくりを続けています。5月中旬に、今年度1回目の「体力テスト」が行われました。一昨年度までの結果から、子ども達の「体の硬さ」が課題となっていました。そこで、朝活動にもストレッチを取り入れました。また養護教諭から家庭でも「ストレッチをしよう」と提案があり、家族の協力のもと続けてきました。その結果、3年生以上は8割が柔軟性が高まり全国平均をこえました。驚きました。他の種目でも、学年が上がるにつれ



全国平均を越えていきます。一方で、低学年は、自己記録は伸びていますが、全国平均より低い結果でした。こうした傾向から見えてくること。それは、入学時には体力面で低くても、日々の遊び、朝活動、全校体育、一輪車を続ける中で6年間かけて「いいじっ子」として、逞しく成長していく（人成っていく）ということです。

また、「昨日、田植えを手伝ったよ」「家族と畑に苗を植えたよ」という話を聞かせてくれます。体を動かし、汗を流して働くことを厭わない。小学校の頃からこうした経験を重ね、習慣化する。「逞しさ（心身ともに健康）」こそ何事にも代え難い財産になっていくことを、子ども達の育ちの姿が教えてくれます。

飯地小学校運営協議会コーナー ふるさと探訪遠足 五明・沖の洞コース 5月1日(木)開催

～地域ぐるみで育てたい姿『豊かな体験を通して、ふるさと飯地への愛着と誇りをもつ』～

風薫る季節を迎え、今年度も「ふるさと探訪遠足」が行われました。児童数は16名。参加者は総勢35名で地域の自然や史跡、歴史、名所を見学しました。「みんなで仲良く、楽しく飯地の自然にふれ合おう!」のめあてのもと自分の足で歩いて、体験することで「飯地町のよさ」をより実感することができました。「いつも通っている場所なのに気が付かなかった」「この場所には、こんな由来があったなんて。見方が変わった」等、歩きながら会話も弾みました。ガイドは、山口鉦一さんに務めていただきました。今年で21回目。コースの安全確保のため事前の準備から疲れを吹き飛ばす名解説付き。「ありがとうございました」

また一緒に参加していただいた保護者、地域の皆様方、一日ありがとうございました。地域を歩いたこと。大人になっても忘れられない宝物を、共有する機会となりました。

